

# アジアの中の日本 —安全・環境・エネルギー—

Japan in Asia: Security, Environment, and Energy

2014年11月28日(金) - 30日(日) 2泊3日 Date: 28-30 November 2014

19:00 開会式 19:00 Opening Ceremony

申込締切/2014年10月6日(月)16時 場所/湘南国際村センター(神奈川県葉山町)

Application Deadline: 4pm October 6, 2014 Venue: Shonan Village Center (Hayama-machi, Kanagawa)



現代アジアの展開を考える  
— Exploring Contemporary Evolution in Asia

基調講演  
Keynote  
Lecture

テーマ Theme

## 東アジアの将来と日本 — 中国情勢・日中関係を中心に —

Japan and the Future of East Asia: A Focus on China's Position and Sino-Japanese Relations

國分 良成氏 Dr. Ryosei Kokubun

防衛大学校長 (President of the National Defense Academy of Japan)



プロフィール Profile

1981年慶應義塾大学大学院博士課程修了、法学博士。慶應義塾大学法学部専任講師、助教授、教授、東アジア研究所所長、法学部長を歴任。2012年4月より現職。元日本国際政治学会理事長、元アジア政経学会理事長。専門は現代中国論、東アジア国際関係、編著書に『中国は、いま』『現代中国の政治と官僚制』『日中関係史』など。

セミナー  
プログラム  
Seminar  
Program

※都合によりプログラム、講師は変更する場合があります。

### ●11月28日(金)

- 17:00 受付開始
- 18:00 夕食
- 19:00 開会式
- 19:15 基調講演〔共通セッションⅠ〕
- 20:45 分科会説明
- 21:00 分科会演習Ⅰ(22:00まで)

### ●11月29日(土)

- 9:00 分科会演習Ⅱ
- 12:00 昼食
- 12:50 休憩・湘南国際村散歩オプション(14:50まで)
- 15:00 特別セッション(共通セッションⅡ)
- 16:40 分科会演習Ⅲ
- 18:00 夕食
- 19:00 分科会演習Ⅳ(22:00まで)

### ●11月30日(日)

- 9:00 分科会演習Ⅴ
- 12:00 昼食
- 13:00 分科会発表〔共通セッションⅢ〕
- 15:30 閉会式

主催  
Organized by  
協力  
Cooperation by

KIF 公益財団法人かながわ国際交流財団 神奈川県  
Kanagawa International Foundation (KIF) Kanagawa Prefecture  
インカレ国際セミナー組織委員会  
Inter-college International Seminar Organizing Committee

インカレ 学術

検索





インカレ国際セミナー組織委員会委員長 Chair, Inter-College International Seminar Organizing Committee

梶島 洋美 (横浜国立大学教授) Hiromi Kabashima (Professor, Yokohama National University)

1980年代、政府の社会政策や政府権力の肥大化への対処として先進国を中心に導入された新自由主義は、市場中心社会の徹底を旗印とし、政策の軸を官から民へ動かすことによって私たちが直面する課題を解決する糸口とされてきました。そしてアジア諸国では今日、その市場メカニズムをベースとする政策によって政権支持を拡大させようとしてきています。市場中心型の政策の採用は経済のグローバル化を促し、私たちにとって歓迎すべき点もありますが、市場メカニズムが国民の格差を招き、各地で政治的な不満を高めていることも確かです。そのような人々の不満に対して政府が領土問題や安全保障体制強化を持ち出し、ナショナリズムを喚起することを通して対処しようとする結果、アジア諸国間での対立が深まっているという見方もあります。確かに、国内製造業が産業の中心であった時代にはナショナリズムを使うことで政治も経済も上昇させていくことが可能なこともありました。金融業やグローバル・サプライ・チェーンを軸にしたボーダレスな分業体制の時代にナショナリズムを利用することはどれほどの意味があるのでしょうか。



現在、私たちが考えなければならない問題は、安全保障、経済、環境、エネルギー、文化など多分野にわたり、一国レベルで解決するには難しい場合もしばしばあります。こうしたグローバル新時代を担っていく皆さんには、アジアというステージで国家の中に生きながらも国家に閉じこもることなく、もっと広がりを持った世界から中長期的な時間軸を認識しつつ問題をとらえ議論していったほしいと思います。

インカレ国際セミナーは今年で12回目を迎えます。統一テーマである「アジアの中の日本」を考えるためのキック・オフ・イベントとして基調講演を設定し、中国研究者として活躍されている國分良成氏にご登壇いただきます。また現在、アジアの国際問題を考えていく際に必要とされる素養の1つとして科学リテラシーが指摘されていますが、2日目の特別セッションでは、これまで鋭く科学技術の問題を中心にメスを入れてきた、朝日新聞編集委員の高橋真理子氏をお招きし、私たちの思考回路を広げられるよう企画しています。

みなさんもこれまでに参加した数百人の先輩たちと同じように、同年代の間とともに悩み、議論をして、今後の学生生活や就職活動、社会人としての生活につなげていってください。人生の中で、今しかできない体験です。積極的な参加を待っています。

Many states in Asia have turned to neoliberalism and nationalism to sustain popular support and overcome political stalemates in critical aspects of both domestic and foreign affairs. Market-oriented policies and globalization have resulted in the marginalization of some members of society and evoking nationalism has become a popular way to divert their grievances. Nationalism functioned during the industrial age to advance society by solving different political and economic problems. I doubt, however, it will prove effective in breaking political and economic deadlocks in the borderless world.

The broad scope of problems we currently face, such as to security, economy, environment, energy supplies and culture, make it difficult for countries to solve these issues alone. As the next generation of leaders, seminar participants are expected to explore and discuss the global implication of these issues from a medium- and long-term perspective.

We hope that, as at previous seminars, the participating students will use the event as an opportunity to think and discuss the issues with other participants, and that this participation will be an experience that benefits their academic pursuits, job hunting, and future careers. I look forward to seeing everyone in November at the seminar.

## 組織委員 Organizing Committee Members



梶島 洋美	横浜国立大学教授 (委員長)	Hiromi Kabashima	Professor, Yokohama National University (Chair)
金丸 裕志	和洋女子大学准教授	Yuji Kanamaru	Associate Professor, Wayo Women's University
小林 正典	海洋政策研究財団研究員	Masanori Kobayashi	Research Fellow, Ocean Policy Research Foundation
鞠 重鎬	横浜市立大学教授	Joong-Ho Kook	Professor, Yokohama City University
黒川 修司	東京女子大学教授	Shuji Kurokawa	Professor, Tokyo Woman's Christian University
林 載桓	青山学院大学准教授	Jaehwan Lim	Associate Professor, Aoyama Gakuin University
大芝 亮	一橋大学教授	Ryo Oshiba	Professor, Hitotsubashi University
押村 高	青山学院大学教授	Takashi Oshimura	Professor, Aoyama Gakuin University
貴家 勝宏	東海大学教授	Katsuhiko Sasuga	Professor, Tokai University
白鳥 浩	法政大学教授	Hiroshi Shiratori	Professor, Hosei University
滝田 賢治	中央大学教授	Kenji Takita	Professor, Chuo University
武藤 誠	(公財) かながわ国際交流財団 常務理事	Makoto Mutoh	Managing Director, Kanagawa International Foundation

\*分科会の詳細はKIFホームページでご確認ください。For more information, please check the KIF website.

\*ノートPCをお持ちの方は是非ご持参ください。なくても問題はありません。

It is encouraged to bring your own laptop computer for discussion group. It's no problem even if you don't have one.

## 分科会 A 自由貿易の功罪—TPPの行方

### The pros and cons of Free Trade: The Prospects of TPP

講師：鞠 重鎬、貴家 勝宏

経済と政治の論理は、マッチしない時が現実によくあります。経済的にはアジアの時代を迎えつつあるにも関わらず、東アジア地域、特に日中韓の間では政治的動きは後戻りしているかのようです。アジア地域だけでなく、欧米など世界の国々とも自由貿易協定や経済協力の動きが拡大し、日本も広域のTPP（環太平洋経済連携協定）の交渉に参加していますが、協議は順調とはいえません。2013年に本格的に動き出したアベノミクスも今年度は正念場を迎え、「三本の矢」と言われる大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間の活力を生かす成長戦略は、果たしてどう評価すべきでしょう。日本銀行による大胆な金融緩和は功を奏するのか、それとも日本の国力を損なうのかが問われています。メディアの報道を鵜呑みにせず、国内外の政治・経済状況を眺め、客観的な立場から互いに議論を深めることが大事だと思います。アジアと自由貿易協定をテーマに、グループでの議論を通じ、課題を掘り下げてアジアの将来像を構想しましょう。

## 分科会 B 安全保障とナショナリズム

### Impact of Nationalism on Asian Security Issues

講師：滝田 賢治、黒川 修司

安倍政権による集団的自衛権の閣議決定、中国の防空識別圏の設定、北朝鮮の核実験とミサイル発射実験、更には尖閣諸島における日中の対峙など、東アジアの安全保障は大きく動き出しています。冷戦終結後も大きな変化がなかったアジアの変動が今注目されます。軍事中心の安全保障ではなく、外交、経済と関連した広い意味での安全保障を考えてもらいたいと思います。

数年前まで話題となっていた東アジア共同体は、マスコミから無視される現状ですが、そんな時こそ信頼醸成措置（CBM）を地道に積み重ねる努力が必要なのではないでしょうか。外交は内政と結びついていることは、コントロールするのが困難な素朴なナショナリズムが各国で起きていることで証明されています。このよう

## 分科会 C アジアの開発とエネルギー

### Development and Energy in Asia

講師：梶島 洋美、金丸 裕志

アジア諸国が重厚長大型の経済発展を追求し、これまでにない莫大なエネルギーを必要としてきている一方で、エネルギー問題は不確実性に満ちあふれています。また、2011年におきた福島第一原子力発電所の事故を契機に、日本国内の原子力発電所の稼働やアジアを含む諸外国との原子力協定の是非が問われるようになってきました。これまでエネルギー問題は政策として国家が取り組むものであるとされ、トップダウン型の決定、実施を常としてきましたが、エネルギーという私たちの身近なものについての政策決定がこれまでのような形でよいのかについても問われています。

本分科会では、①エネルギーの安定的供給源の確保、とりわけ原子力発電をどう

## Group D

(英語で討論します。Language: English)

### Environment – Drivers for Sustainability

Lecturers: Ryo Oshiba, Masanori Kobayashi

Are we on a track to ensure sustainable future for present and future generations? Heads of States reaffirmed their commitments to this end at Rio+20 two years ago as articulated in "The Future We Want". 17 Sustainable Development Goals are now developed as an attempt to set post 2015 development agenda. Will they safeguard our sustainable future? Will technology enable us to resolve climate change challenges? How can we ensure that decisions over land and resource use will be optimal and conducive to protecting ecosystem and biodiversity and promoting sustainable resource use? What policy, institutional and financial set-ups are needed? This Group will use a case study method and analyse the critical factors essential for protecting the environment, promoting sustainable natural resource management and improving human well-being. This

## Group E

(英語で討論します。Language: English)

### Culture and Diplomacy In Sync or in Conflict?

Lecturers: Takashi Oshimura, Jaehwan Lim

Can culture be used as an effective tool for diplomacy? Cultural diplomacy is in vogue today. Asia, the Middle East, Russia, India, and China are all taking soft power seriously. China has spent millions on their Confucius Institutes. Korea is making huge investments in large-scale cultural projects, as is Brazil, which is projecting the wonders of football and samba music. Proponents of soft diplomacy argue that cultural activities can be as effective as more explicit measures. Culture can resolve troubles in the Middle East, terrorism, and climate change. Still, there is a danger of relying on culture to solve everything. After all, it is impossible to know how effective culture is when it is put to work in the service of diplomacy. Hard power diplomacy can lead to formal agreements, whereas the outcomes of cultural diplomacy are more difficult to identify.

(都合によりプログラム、講師は変更する場合があります。Program contents and lecturers are subject to change.)

#### <事前課題>

下記の参考文献はあくまでも参考例です。グループ・ディスカッションに臨む前に、自分なりに、「アジアの中の日本と自由貿易」をテーマに考えておく（できれば、メモ書きでも用意する）のが良いでしょう。例えば、

- FTA、RCEP、TPP、ASEANなど、多くの用語は何を意味するか。
- なぜ日本が自由貿易を進める必要があるのか。
- 自由貿易を進める際、農業部門が反対するとしても進めた方が良いのかどうか。
- 日本・アジア・世界各国の経済・財政・金融政策が、どのように絡んでいるか。

#### <参考文献>

- ①寺田貴『東アジアとアジア太平洋:競合する地域統合』、東京大学出版会、2013年。
- ②馬田啓一、浦田秀次郎、木村福成編著『日本のTPP戦略—課題と展望—』文真堂、2012年。
- ③井堀利宏監訳『入門財政・公共政策』勁草書房、2006年。

な状況において、この分科会では東アジアで起こっている安全保障に関する様々な問題を議論して、一定の方向性を打ち出して発表します。学生らしく、節度を持って感情に走らず、証拠を持って発言してください。このインカレは複数の大学から参加した学生が主体となって運営するものです。以下の参考書を読んで、基礎知識をきちんと備えてから参加してください。

#### <参考文献>

- ①渡邊昭夫編『2010年代の国際政治環境と日本の安全保障』防衛省防衛研究所、2014年。(ネットで閲覧可能)
- ②防衛省防衛研究所編『東アジア戦略概観2014』ぎょうせい、2014年。(ネットで閲覧可能)
- ③松井一彦「東アジアの安全保障と多国間協力」『立法と調査』2007年10月号、#623。(ネットで閲覧可能)

位置づけるか、②アジアにおける経済発展とエネルギー供給問題はこれからどうなっていくのか、③ODA政策などでの国際的なエネルギー協力をいかなる方向に設定するか、について考えます。参加者は、参考文献を事前に読むとともに、各自アジアにある1つか2つの国の直面するエネルギー需給の状況や課題について調べてきてください。

#### <参考文献>

- ①飯田哲也『エネルギー進化論—「第4の革命」が日本を変える』ちくま新書、2011年。
- ②村上朋子「福島第1原子力発電所事故後の世界の原子力政策動向」『国際問題』606号、2011年、26—35頁。
- ③武石礼司「世界のエネルギー情勢の近年における動向と将来見通し」『国際問題』606号、2011年、6—15頁。

Group aims to develop the participating students' analytical and facilitation skills required to take a lead in supporting actions for sustainability.

#### Reference:

1. Rockström, J. et al. 2009. Planetary boundaries: exploring the safe operating space for humanity. *Ecology and Society* 14(2): 32. <http://www.ecologyandsociety.org/vol14/iss2/art32/>.
2. Ostrom, E. 2009. A General Framework for Analyzing Sustainability of Social-Ecological systems. *Science* 325. <http://www.era-mx.org/biblio/Ostrom,%202009.pdf>.
3. Kobayashi, M. 2014. Participatory Sustainability Research for Risk Management and Leadership Development. In: Kaneko, N. et al. eds, *Sustainable Living with Environmental Risks*. Springer. <http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54804-1>

This group will discuss what cultural diplomacy can achieve and how to use culture and soft power in a more effective way to contribute to a harmonic independent world.

#### Prior assignment:

Prepare one thing that you would like to promote in Japan and come up with a strategy to use it for cultural diplomacy.

#### Reference:

1. 渡辺靖「文化と外交—パブリック・ディプロマシーの時代」中央公論新社、2011年。
2. Joseph S. Nye Jr. (2005) *Soft Power* (New York: Public Affairs)
3. British Council, "Influence and Attraction: Culture and the race for soft power in the 21st century" (<http://www.britishcouncil.org/sites/britishcouncil.uk2/files/influence-and-attraction-report.pdf>)

## 参加申込方法 Application Information



**参加資格:** 東アジアの政治や文化、開発などに興味を持つ大学生、大学院生および若手社会人。専門分野は問いません。使用言語は日本語または英語です。**通訳はつきません。**

**期間:** 2014年11月28日(金)~11月30日(日) 2泊3日  
11月28日の午後5時から開会式会場前にて受付を行います。大学等の理由により遅れる場合には、遅くとも開会式の15分前までに受付を完了してください。なお、受講生は全プログラムに参加するものとします。

**場所:** 湘南国際村センター  
〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39  
<http://www.shonan-village.co.jp/>

**定員:** 90名

**費用:** 23,000円 (留学生10,000円 ※但し選考があります。)

**修了証:** 本セミナーを修了した参加者に対して組織委員会から修了証が交付されます。

**宿泊:** 同性での複数人部屋 (2~6名)

**応募方法:** 所定の申込用紙に必要事項を書いて、FAX、もしくはE-mailにて**10月6日16時必着**でお申し込みください。申込用紙は、かながわ国際交流財団のホームページからもダウンロードできます。<http://www.kifjp.org/nimp/incolle>

**合格通知:** 応募者は組織委員によって審査され、10月21日頃までに全員に可否を通知します。合格者には「参加証」と、参加費の「振込先銀行口座」もE-mailにてご連絡いたしますので、11月4日までに参加費をお振り込みください。

**キャンセルについて:** 都合により参加を取り消される場合は、すみやかにセミナー事務局迄ご連絡ください。所定のキャンセル料を差し引いた額を返金いたします。

**保険について:** 本セミナー期間中の施設(建物)の損壊に係る傷害には保険が適用されます。それ以外については保険の対象外となります。

### お問合せ/お申込み:

(公財)かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター  
インカレ国際セミナー事務局 (担当: 佐々木、小松)  
〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39  
湘南国際村センター内  
TEL: 046-855-1821 (9:00~17:00 土日祝日をのぞく)  
FAX: 046-858-1210 E-mail: [incolle@kifjp.org](mailto:incolle@kifjp.org)  
URL: <http://www.kifjp.org/>

**Qualification:** Undergraduate/graduate university students of any specialized field, or young workers interested in East Asian politics, culture and development. This seminar will be conducted in Japanese or English. No interpretation will be provided.

**Date:** 28 - 30 November 2014  
Registration begins at 5:00 pm on 28 November. If you will be late for it due to a university etc., please complete registration at least 15 minutes before the opening ceremony. Participants are expected to stay for the entire duration of the seminar.

**Venue:** Shonan Village Center  
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198  
<http://www.shonan-village.co.jp/svc/>

**Number of participants:** 90

**Fee:** 23,000 yen (10,000 yen for foreign students. Note that there will be a selection process.)

**Certificate:** Each participant will receive a certificate upon successful completion of the seminar.

**Accommodation:** Room sharing with 2 to 6 people of the same sex.

**How to apply:** Please fill in the application form and send it to Secretariat by FAX or E-mail, no later than 4:00 pm 6 October. The application form can be downloaded on Kanagawa International Foundation website. <http://www.kifjp.org/nimp/incolle>

**Notification of admittance:** Applications will be reviewed by the Organizing Committee. Results will be notified to all applicants by E-mail around 21 October. The participation fee must be deposited to the designated bank account by 4 November. Details will be sent to the selected participants directly.

**Cancellation:** If you have to cancel your attendance, please contact the Secretariat as soon as possible. Participation fees will be refunded after deduction of cancellation fees and bank charges.

**Insurance:** Insurance covers the injury concerning destruction of the building in this seminar period. Personal accident insurance is not applied other than this.

### Secretariat:

Kanagawa International Foundation (KIF)  
Shonan Village Academic Research Center  
(Program Officers: Akie Sasaki or Rie Komatsu)  
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198  
TEL: 046-855-1821 FAX: 046-858-1210 E-mail: [incolle@kifjp.org](mailto:incolle@kifjp.org)  
Office hours: Monday - Friday 9:00-17:00 (except national holidays)  
(Should you have any questions, please contact above.)

## 会場のご案内 Access



### ●バスをご利用の場合

- ▶JR逗子駅前1番乗り場より16系統、26系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗り、終点の「湘南国際村センター前」下車。(所要時間約30分、料金350円)  
※このバスは2~3分後に京急新逗子駅前1番乗り場に停車します。
- ▶京急汐入駅前2番乗り場より16系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗り、「湘南国際村センター前」下車。(所要時間約30分、料金380円)

### ●タクシーをご利用の場合

- ▶JR逗子駅前タクシー乗り場より「湘南国際村センター」まで約15分。  
料金約2,900円。

日本語: <http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

English: <http://www.shonan-village.co.jp/svc/access.html>

